

年度評価シート（令和6年度）

課名 文化政策課

施設の名称 静岡市美術館	指定管理者名（公財）静岡市文化振興財団		
1 履行状況			

(1) 目標達成			
ア 入館者数			
目標値 30 万人（5 年間の累計総入館者数 150 万人）			
実績値 286,668 人（前年度 286,128 人）、達成率 95.6%（前年度比 100.2%）			
【参考】令和元年度（コロナ前） 実績値 255,328 人、達成率 85.1%			
イ 展覧会事業における来場者満足度（年間平均）			
目標値 85%、実績値 94.8%（前年度 96.0%）、達成率 111.5%（前年度比 98.8%）			
(2) 施設利用状況			
入館者数	286,668 人		
展覧会来場者数	149,917 人		
(3) 人員配置状況			
館長 1 人、副館長 2 人			
総務課長 1 人（副館長兼務）			
総務課：正規職員 3 人、契約職員 1 人、派遣職員 1 人			
学芸課長 1 人			
学芸課：正規職員 9 人（学芸員 7 人、広報 2 人）、臨時職員 1 人			
(4) 業務実施状況			
静岡市美術館条例第 11 条に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。			
主な事業と参加者数は以下のとおり。			
ア 展覧会事業			
展覧会名	観覧者数	目標	達成率
京都細見美術館の名品 —琳派、若冲、ときめき日本美術—	23,273 人	22,000 人	105.8%
静岡市文化振興財団設立30周年記念事業 没後35周年記念 平野富山展 —平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡	6,844 人	12,000 人	57.0%
珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年	71,643 人	40,100 人	178.7%

令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に	7,437人	12,000人	62.0%
キース・ヘリング展 アートをストリートへ	25,342人	26,000人	97.5%
北欧の神秘 ーノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画	15,378人	22,000人	69.9%

イ 展覧会関連事業

催事名	実施回数	参加者数
ミュージアム教室	89回	1,673人
展示解説	16回	310人
講演会、スライドトーク等	16回	1,063人

ウ 交流事業

催事名	実施回数	参加者数
Shizubiシネマアワー	4回	220人
暦とあそぶワークショップ	2回	42人
プレゼントワークショップ	2回	27人
しずびチビッコプログラム	6回	124人
しずびオープンアトリエ	40回	401人
おうちで！しずびオープンアトリエ	—	24人
平野富山ブロンズ彫刻パネル展	—	18,586人
Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」	—	25,396人

エ 連携事業

催事名	実施回数	参加者数
生涯学習センター等との連携事業等	13回	865人
静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業	2回	87人

【検証・分析等】

事業全体を通じて、施設の設置目的及び基本理念を理解、達成するために明確な事業方針を定め、新たな試みにも積極的に取り組んでいる。

ア 展覧会事業

独自の調査研究に基づく自主企画展や西洋美術、現代美術など変化に富んだ地域や時代、分野の展覧会6本を開催した。

「京都細見美術館の名品」では、考古遺物から近代絵画まで厳選した重要文化財8件を含む104件を展示し目標を上回る観覧者を獲得した。

「平野富山展」では、旧清水市出身の彩色木彫家である平野富山を顕彰する初の回顧展で、各地から集めた関連作家の作品も交えて紹介し富山の仕事の全容に迫った。長期的な活用が期待される資料性の高い図録の作成や、市収蔵品の活用と静岡ゆかりの

作家の顕彰に努めたことで地域の美術への関心を高めることができた。

「西洋絵画の400年」では、東京富士美術館が所蔵する良質な作品83点を主題の変化に着目して紹介し、開館以来3位の入場者に恵まれた。混雑状況を写真や一覧表にして発信するなど混雑対策を施した運営方法に努めた結果、アンケートの全体評価でも高い満足度を得ることができた。

「写真をめぐる100年ものがたり」は、京都国立近代美術館の写真コレクションを中心とする180点で写真表現の変遷をたどる自主企画展として開催した。学芸面では、オリジナル図録が全国カタログ展で銀賞を受賞するなど、図録の完成度に対しても高い評価を得ることができた。

「キース・ヘリング展」は、ヘリングの世界を表現した視覚・聴覚に訴える演出が評価され、アンケートの全体評価でも高い満足度(97.2%)を得ることができた。SNSを活用した広報を行った結果、幅広い世代や関心層から注目を集めることができた。

「北欧の神秘」は、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドの絵画を展示し、日本では目にすることの少ない北欧絵画の魅力を紹介する貴重な機会を提供した。

イ 展覧会関連事業

展覧会の内容と合わせて各分野のスペシャリストである講師の講演会、静岡市美術館学芸員によるスライドトーク等を実施し、「美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目標とする」という静岡市美術館の設置目的が達成できている。

ウ 交流事業

交流(教育普及)事業は、学校や生涯学習センターからの団体解説など鑑賞教育と、多彩なワークショップシリーズを柱にした実技体験を中心に、自宅で楽しめる「おうちで!しずびオープンアトリエ」など、美術への興味関心を高める機会の提供に努めている。また、美術館の調査を出発点に、関係者や研究者、市民から得られた情報も生かして開かれた研究を目指す「Shizubi Research+」では、倉俣史朗と静岡のつながりを紹介し市民の関心を促進した。

エ 連携事業

「写真をめぐる100年ものがたり展」に関連した工作や実験(静岡科学館)、「北欧の神秘展」に関連したミュージアムコンサート(静岡音楽館)を各館の専門性を活かして連携して開催した。各施設の来館者が相互に足を運ぶ機会を創出し、市民が新たな文化に触れ、関心を持つ機会を提供することができた。

【確認結果】

○:協定書等の内容が適正に履行されている。

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

意見等：いつも興味深い展示に楽しませてもらっています。一つ希望（要望）を言わせて頂ければ、毎展示の素晴らしいポスターをミュージアムショップで販売して頂けないでしょうか。いつもポスターを見ながら思っています。

対応：各展覧会のポスターは販売を目的として制作していないため、販売することはできないが、各展覧会終了後に、ポスターに余剰がある場合に限り、ご希望の方に差し上げている。

【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、良好な対応がなされているといえる。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

展覧会観覧者に対して事業ごとのアンケートを実施し、満足度調査を行った。

【調査結果】

展覧会への満足度

「満足」「ほぼ満足」の回答割合（全展覧会平均）：94.8%

- ・京都細見美術館の名品：94.6%
- ・平野富山展：96.0%
- ・西洋絵画の400年：93.2%
- ・写真をめぐる100年のものがたり：94.7%
- ・キース・ヘリング展：97.2%
- ・北欧の神秘：97.1%

【検証・分析等】

全展覧会の平均満足度は94.8%（前年度96.0%）であり、目標値である満足度85%を大きく超えたことは高く評価できる。すべての項目が高い水準であり、良好な評価を得ている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

【調査結果】

回答者総数6,776人、当該施設を知っていると回答した人：4,954人（73.1%）

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査した。

【調査結果】

- ① 「職員の対応」90.0%

- ② 「清掃、整理整頓」 93.3%
- ③ 「案内表示、掲示板」 86.7%
- ④ 「開館時間・休館日」 83.3%
- ⑤ 「空調・明るさ」 86.7%

【検証・分析等】

5項目の平均値で算出した満足度は88.0%であり、すべての項目が高い水準であることから、良好な評価を得ている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

指定管理業務についての収支状況については、チケット等収入の実績額が予算額よりも増加し、事業全体としては黒字となり概ね予算のとおりに執行されている。また、開催した展覧会において、助成金や制度の活用による費用負担の軽減や、新聞社・テレビ局等マスコミ各社から出資共催を得るなど、限られた予算の中で効果的な事業実施に努めた。今後も堅実な運営に期待したい。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総合的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

【検証・分析等】

指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い良好に実施されている。

事業については、展覧会事業を柱として関連事業及び交流事業、連携事業を積極的に行った。独自の調査研究に基づく自主企画展2本をはじめ、重要文化財を含む充実した展示内容が展開されたことは、これまで当指定管理者が培った経験やネットワークの賜物であると評価している。

学芸員の知識や経験を活かし、図録や鑑賞ガイドの制作など独自の取組みを実施したり、静岡市美術館としてこれまでに構築したネットワークをもとに出品内容の充実を図ったりしたことは大いに評価できる。こうした取組みの成果として、観覧者の満足度も非常に高くなった。また、事業内容の充実のみならず、広報面においても、常に幅広い世代や関心層への広報手段を検討していることを評価したい。SNSを活用した情報発信では、市民参加型の広報や、ターゲット層を綿密に調整し戦略的な広報を行った結果、各展覧会に対する注目を集めることができている。

「芸術文化の交流拠点」として、今後もより多くの人々に静岡市美術館の魅力を発信し、人々が芸術文化の魅力に触れることができるよう様々な工夫を行っていくことを期待する。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。